

第2回 FA・SIer 協会設立準備 WG2

【日時】2018年2月15日(木) 13:00~14:30

【場所】機械振興会館 6階 6D-1、6D-2

【参加者】戸荏(戸荏工業)、栗原(デザインネットワーク)、金谷(テクノス)、幸物(関東経済産業局)、松井(ティーネットジャパン)、名倉(日本設計工業)、伊藤(近藤製作所)、高橋(豊電子)、松原(TS)、戸口(TS)、奥山(HCI)、下間(バイナス)、永井(バイナス)、谷口(東レエンジニアリング)、上田(IDECファクトリーソリューションズ)、中田(中部経済産業局)、高山(松栄テクノサービス)、国枝(ヒロテック)、久保(エイジエック)、高丸(高丸工業)、栗屋(ハンドトラスト)、服部(ハンドトラスト)、佐々木(さばみはら産業創造センター)、鈴木(損保ジャパン日本興亜)、葛川(損保ジャパン日本興亜)、星(ヤマハ発電機)、田口(田口鉄工所)、大槻(筑波エンジニアリング)、小泉(山善)、茅原(富士ソフト)、泉(ミツイワ)、森田(ミツイワ)、柳原(ヤナギハラメカックス)、成瀬(豊電子)、振本(大豊産業)、櫻井(永昇電子)、五十嵐(東京海上日動)、竹松(東京海上日動)

事務局：小平、高本、須田(JARA)、中川(NTTD経営研究所)

(敬称略、順不同)

1. 現在の進捗報告

- 幹事会を2回実施しており、大まかな方向性を検討した。SIer協会は、初年度はJARA内に独立した口座を持つ任意団体として設立する。

2. SIer協会設立に当たり

1) 保険について

- 幹事会にて保険会社に提案いただいた保険は、SIer協会会員全員につける総付け保険、いわゆるPL保険のようなもの。今回はSIer保険の設計段階から行う。それに当たり、東京海上日動でSIerのリスク事項や規模を教える欲しいと要望を戴いている。当社が加盟している保険で、顧客から借りているロボットが感傷して壊れた場合などの複雑なパターンを挙げながら進めさせていただいている。現在松栄テクノが加入している保険は、年間100万円程度合計で支払いをして60万円程度は実際の保険として活用している。ただし、今回の総付け保険ではこのような保険内容を最初から盛り込むことは不可。まずは、ある程度保険会社とSIer協会の利害が把握できなければならない。それでも、総付け保険が出来上がるまで2~3年程度かかると聞いている。
 - 日本のみでなく海外保険を含むのか。北欧との納品の際に検収時に問題が起きて、保限度額以上を超えたケースがあったので知りたい。

- 一種の旅行保険をイメージしていただきたい。海外はオプションとし別途加入いただくこととなる。保険会社に意見し、改めて決まったことを報告させていただく。
 - 東京海上日動と SIer 協会の直接の保険契約となる可能性がある。理想に近づけたい我々の思いと儲けたい保険会社の思いの間が完成形となる。
- 小規模 SIer では機械器具設置業、建築業に関する資格を取得していないが何十年も仕事している企業が多い。しかし近年では、大手物流で資格を取得しないと仕事を渡さないというケースが多くなってきている。協会から取得すべき資格を伝えるべき。
- 15 番のガバナンス系標準化について、SIer の資金繰りが大変であり、受注した際に受注額の 1/3 をもらうようにしている。ただし、実際はなかなか RIPS に乗っ取って検収を行ったり、受注額を初期段階でもらうことは困難。
 - RIPS に全ての方が賛成ではないのは理解している。現在 100%RIPS に準拠できるわけではない。そこを皆さんのお力をいただき、RIPS をよりいいものにしていただき、RIPS に乗っ取って各工程に対する検収をすることの意義を理解戴きたい。
- 専門性の高度化、ビジネスマッチングにおいても、全てスキル表標準に綱がる。エンドユーザーへの提言も考え、大きな要素の中でより重要なものを進めていくべき。
- 保険会社の立場から、事務局でどの程度のコンセンサスがついているのかを教えてください。大きく保険には 2 種類あり、1 つは任意保守、もう一つが総付け契約となる。前者は個別の任意加入であれば割引メリットが有り、オーダーメイドで補償内容が変更できるため、柔軟対応が可能。後者は簡便であるが融通が利かない。保険料算出のための平均値がそろっている会員区分であれば良いが、平均値を取ると大きい企業に引っ張られる傾向となる。業務リスクは割高な保険料だが、これを総付け契約に入れると高額になる。会員にとって、どちらが都合が良いのか。
 - 課題は何千人の SIer がいるのか。総付け契約の方が全体把握をするためにいいと考えた。保険の範囲はオプションとして入れていただくと良い。
- 兼業で SIer をしている。PL 保険は入っているが、この区分けはどう考えたらいいか。
 - SIer が裾野を広げつつ、業務高度化をしていくところで保険会社では知見が無い。どういう事故、リスク、対策があるのかを検討するに当たり、そこから起きるリスクから SIer 協会が気をつけるべき項目を集め、啓発へ繋げたい。ただし、全てを網羅する保険を作ることは難しいので、一定の中で考えたい。
- PL 保険との違いは、事務局の希望としては、自社が誤って壊したものでもまかなえるような SIer にありがちな事故を保証できるものだと良いと考えている。
 - ロボットを使用したことが無いユーザーに導入する際にどういった想定外が起こるのか不明。
 - どこまでカバーするかの範囲、実際の条件、いくらまで乗せるかの限度額はわからないので、全てをまかなうことはできない。

2) 事業基盤の強化について

- 当社では事業基盤の強化として、顧客に構想検討を有償化することを義務付けている。構想検討にも工数を使うので料金をもらいたい。これを了承してくれるのは、本当に自動化がしたい企業のみ。構想検討を必須とは言わないが、SIer 企業として共通として話していけると良い。
- お金を取ることに納得しつつも、構想検討時点でなかなか費用を取りづらい。そのため、当社では実機を使った検証は無償で行っている。販売店、代理店ときっちり手を結ぶことができるが良い。
- RIPS は、中小企業で初めてロボットを導入する場合というよりは、大手企業に対してのものである。
- 構成背景で予算目処も立っていないので、計算式が複雑。
- ここまでは無料、ということを決めることも有りではないか。例えば試験が入ったら必ず有償とするなど。前捌き部分は無償だが、それ以降は有償ということまで決めても良いかもしれないが、RIPS はそこまではまだ踏み込んでいない。
- 各社それぞれのやり方があるので、RIPS はあくまで参考として活用するのがよい。
- RIPS の一部はエンドユーザー教育を意図している。法律で決めるには時間がかかるが、通達を出してもらうことは可能。そこまでは協会の機能として働きかけることができる。そういう活動に持ち込み周知させることが重要。構想検討の費用についても積極的に RIPS に取り込むことが必要。
- IT の業界でも、ソフトウェアに高価な金額を出してもらえるように成るまでは時間がかかった。SIer の仕事でも同様に、お金をもらうべきところは継続して主張していくべき。
- RIPS で段階的に強制力を持たせてもらえると助かる。
- 構想設計は一つの地財に当たる。NDA も含めて事業基盤の強化の中で知財も重要となるのでそれに関する内容を盛り込んでいただきたい。
 - 設備の構想にも地財はあると思うが、現状としては特許としてはあまり認められていない。
 - NDA も文章を出すと変更されて返却されることが多くある。それに関しても技術的、知識的に協会からサポートいただけると良い。
 - 構想設計費用はそつと本見積りに入れている。3~4 社でコンペをされるとその段階でお金がもらえるのか、ということはある。
- 安全性については日本が遅れている。安全性はあまり無いものだと考えていると足元をすくわれる可能性がある。

3. 会員について

- SIer 協会の会員は 3 つ想定：

- ①SI 会員で SIer を生業としている会員
- ②協賛会員（銀行、保険業者、ロボットメーカー等）
- ③学術協賛会員
- SIer 会員は一律会費を検討中。資本金の少ない企業は半額にするなど今後議論はあるが、基本一律とする。協賛会員は口数制（一口 10 万円など）を想定。大きな口数に対してはより大きなメリットが与えられる。学術協賛は無料となる想定。
- 協会運営に年間一千万円程度かかると想定している。

4. SIer 協業システムに関して

1) 協業システム

- SIer の会員内だけで見られるものを作りたいが、自己申告ベースで各社どこまでさせるのか。
- 顧客紹介があるといいのではないか。それを入れることでこの企業と一緒にやってみようということがあるのではないか。
- どのロボットメーカーのロボを使えるか、またどのロボットを持っているかなどわかると良い。
- ML でこういう項目が欲しいという内容を挙げて事務局に連絡戴きたい。
- 各社の情報を見られるマトリックス、案件情報、マッチング要望を解決できるシステムを協会設立までに事務局として初期段階から作りたい。

2) HP

- 事務局で、SIer 協会の HP の作成を検討している。特徴的な点は、広告バナーを設け協賛会員の中から口数が多い企業の広告を出す点。口数が多い協賛企業は、SIer 協会メンバーに対して多くメールを投げられる、等を検討している。
- まずは HP を立ち上げ、協会が立ち上がった後でより詳しく修正すればよい。

5. その他意見交換

- 経営基盤に関して、METI や外郭団体がロボット活用についての会議に参加させて戴いているが、そこでシステムインテグレーション費用をいかに下げるかという議論があった。費用対効果では効果を上げるべき。外郭団体の意識がその点で低い。この協会から、効果を上げることを発信戴きたい。
- ロボットの安全教育については、ISO10282 を評価した上での安全教育となる。インストラクター教育は必要最低限の知識があれば良いこととなっている。

以上